

活気あふれるホーチミン市

ベトナムといえば、ノンラー（編み笠）をかぶって農作業をする田園の風景を思い浮かべる人も多いのではないだろうか。

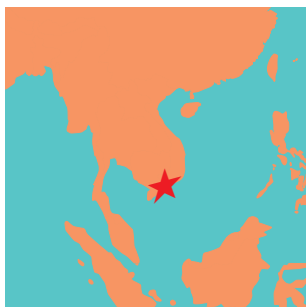
しかし、ホーチミン市の道路にはバイクや乗用車があふれ、街のいたるところで建築ラッシュが見られる。もうすぐ「高層ビルが建ち並ぶ街」になるのではという勢いがある。

意外と知られていないが、ベトナムはブラジルに次いで世界第二位のコーヒー生産国。

観光客も大勢訪れるペンタン市場



校舎



●ベトナム●

# ホーチミン 日本人学校



スクール エンブレム

## 現地の教育環境

### 日本人子女の教育

ホーチミン市には、学齢期にある日本人子女が約二五〇人住んでおり、そのうちの約七割が本校に通学している。また、世界各国のインターナショナルスクールが四十校以上もあり、平日にインターナショナルスクール、土曜日に補習授業校に通学している日本人子女も多い。

またホーチミン市は、かわいい雑貨の街として知られてきており、この雑貨を買いにくる日本人観光客も多い。日本人が多く訪れることもあり、ベトナム人の中で日本語を学ぼうという熱が高く、日本人は好意的に迎えられている。

小学部3年  
総合的な学習の時間の発表



### ベトナムの教育制度

教育の中央行政機関は、教育訓練省である。現在、初等教育の五年間が義務教育で、その後、四年間の前期中等教育、さらに三年間の後期中等教育、そして大学、技術職業訓練学校などの高等教育が設置されている。

小学校教育では、ベトナム語と算数の授業が重視されている。また予算の関係で、午前部と午後部の二部制をとっているところがほとんどである。日本のようにプールなどは設置されておらず、泳げない児童生徒が多いのも課題だという。

### ベトナムの学校における日本語教育

現在、ホーチミン市では、二校の中学校で第一外国語として日本語を週三時間、日本人の指導のもとで学習している。また今年度より公立の高校においても日本語の学習を教育課程の中に位置づけるように検討



現地の大学生との交流

